

歴史文化の特徴 1 激しい地殻変動が生み出した長野の大地

ストーリー 1 大地の記憶 海だった長野

長野市は北部フォッサマグナ地域に位置し、激しい地殻変動を経験している。長野市の最高峰、高妻山（標高 2353m）も海底だった場所が隆起してできた。長野周辺の地殻変動は現在も続いている。特に長野盆地を形成した西縁断層は変動量が 2000 m を超え、善光寺地震の震源でもあり、活動度の高い活断層である。

激しい断層の動きが、盆地を沈降させ、千曲川や犀川などの河川が市内で合流する原因をつくっている。また、こうした河川の流入が、扇状地や氾濫原、自然堤防や後背湿地などの多様な自然環境をつくった。また、隆起した山間地では地すべりが多く、それを利用して集落が形成されてきた。

また、長野市北部にある飯縄山は更新世中期から後期にかけて噴火を繰り返した成層火山である。そして、水を貯える山でもあり、山麓の湧水が長野盆地の水源となってきた。こうした、自然環境の多様性が素地となり、地区ごとに工夫した農耕や生活が営まれ、多様な生活文化を育成した。

海の生き物たち

- ・長野市の西側では、約 1000 万年～ 200 万年前の海成層が表面に露出している。その地層からは、海洋生物の化石が多く見つかる。江戸時代中期に平賀源内が著した「物類品隲」にも登場する。これらの化石から、長野が海だった時代の古環境を知ることができる。
- ・500 万年前ころの地層が信州新町周辺で見られる。この地層からは、セイウチやシンシュウセミクジラ（セミクジラ属の最古の種類）の化石等が発見される、貝化石からは上部浅海帯～下部浅海帯（大陸棚より浅い）の環境であったことがわかっている。
- ・400 万年前～ 250 万年前ころの地層が長野市西部に見られ、当時、長野市西部に海岸線が存在したことがわかる。

☒城下層（中条周辺、420 万年前ころ）では、サカエオオシジミ・マガキなどの貝化石が見つかる。

☒荻久保層（戸隠周辺、約 360 万年前）ではマガキ、ホタテガイ、シガラミサルボウなどの貝化石が多く産する。冷たい海にすむ貝類が多いが、この時代はアワビの仲間の化石が見つかることから、対馬海峡が開いて暖流が流れ込んだと考えられている。この他にも、ホタテガイの化石（ヤマサキホタテ・シナノホタテ・ナガノホタテ）やサメの仲間の歯化石、クジラ類、カイギュウ類の化石を産する。

☒猿丸層（戸隠周辺、約 300 ～ 150 万年前ころ）からは、クジラの化石が産する。この地層は、長野周辺では最後の海成層である。

☒また、長野市西部は、上記のシナノホタテ、ヤマサキホタテ、シガラミサルボウなどの絶滅した貝類の模式標本地ともなっている。



セイウチ化石

激しい地殻変動を示す痕跡

- ・長野市の西部の山地は海底に堆積した厚い地層でできている。その後、隆起を続けているので、これらの山地からは貝類や魚類の化石が発見される。また、標高の高い多雪地域では氷河期に侵食が進み、地層が硬い部分では急峻な地形となり、戸隠山のように特徴的な景観をつくった。
- ・約 700 万年前、長野市西部において大規模な流紋岩質の海底火山の噴火が起こった。この時、形成された裾花凝灰岩が盆地西縁部に分布する。500 万年前にも大規模な安山岩質の海底火山の噴火があった。戸隠山や虫倉山などをつくる凝灰角礫岩類である。また、若穂地域では、約 2000 万年前の海底で溶岩が噴出してできた枕状溶岩も見られる。これらは長野市が海底で、何度も大規模な火山噴火をしてきたことを示す証拠である。
- ・戸隠川下や中条、鬼無里等で見つかったシンシュウゾウ（ミエゾウ）は、中国大陸を起源とする世界最大級のステゴドンゾウの一種である。この発見は、日本がかつて中国大陸と陸続きであったことを示している。
- ・鬼無里地域の奥裾花峡谷は、大地の隆起と流水の浸食が生み出した峡谷である。日影向斜軸部の観察や、リップルマーク、ポットポール、ハチノス状風化岩など多彩な地質現象が見られる。
- ・約 80 万年前、長野盆地周辺で火山活動が激しくなり、斑尾、草津白根、四阿、志賀高原などの火山群が噴火した。
- ・約 40 万年前から飯縄山は噴火を繰り返し成層火山として成長し、なだらかな山麓をつくり高原のリゾート地やスキー場として利用されている。皆神山（松代）、髻山（若槻）も溶岩ドームである。これらの中で特異な山容をもつ飯縄山、戸隠山、皆神山などは信仰の対象ともなっている。
- ・長野盆地西縁断層の動きは、犀川や裾花川の扇状地を形成した。善光寺や川中島などの観光地もこうした扇状地の上にある。また、犀川の扇状地は千曲川を松代側へ移動させ、松代城の立地ともなっている。また、扇状地は水が浸透しやすいので、鐘鋳堰をはじめとする用水路が各地で発達した。



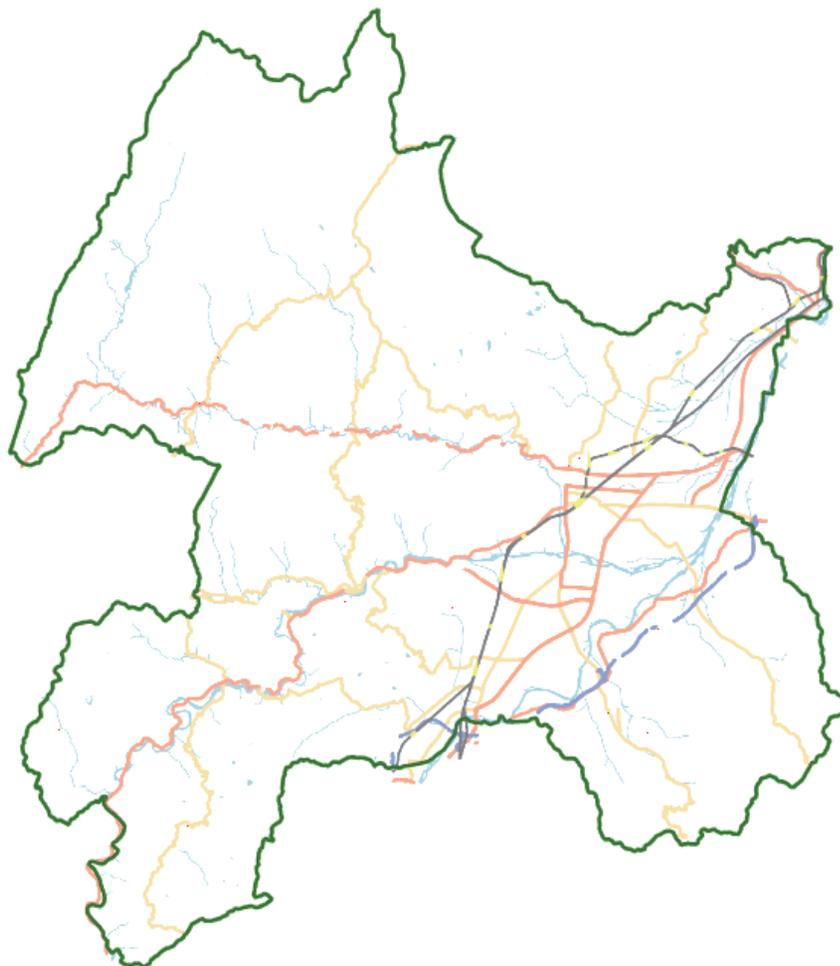
シンシュウゾウ（ミエゾウ）の下顎骨



リップルマーク（鬼無里）

関連文化財群の構成文化財

番号	区分	名称	地区	所有者等	指定等
1	名勝地	裾花峡	小田切		
2	地質鉱物	裾花凝灰岩	小田切		
3	地質鉱物	論地泥岩砂岩層	小田切		
4	地質鉱物	柵凝灰角礫岩層	小田切		
5	地質鉱物	大柳及び井上の枕状溶岩	若穂		県指定記念物(天然記念物)
6	地質鉱物	戸隠川下のシンシュウゾウ化石	戸隠	長野市立博物館(戸隠地質化石博物館)	県指定記念物(天然記念物)
7	地質鉱物	戸隠積沢の化石群	戸隠		市指定記念物(天然記念物)
8	名勝地	奥裾花峡谷	鬼無里		県指定記念物(名勝)
9	地質鉱物	深谷沢の蜂の巣状風化岩	鬼無里		県指定記念物(天然記念物)
10	地質鉱物	クルワドウ沢入口サンドパイプ	鬼無里		市指定記念物(天然記念物)
11	地質鉱物	ハチノス状風化岩	鬼無里		市指定記念物(天然記念物)
12	地質鉱物	千畳敷岩	鬼無里		市指定記念物(天然記念物)
13	地質鉱物	漣痕(リップルマーク)	鬼無里		市指定記念物(天然記念物)
14	地質鉱物	日影向斜の向斜軸	鬼無里		市指定記念物(天然記念物)
15	地質鉱物	甌穴(ポットホール)	鬼無里		市指定記念物(天然記念物)
16	地質鉱物	アズメ沢の化石群	鬼無里		市指定記念物(天然記念物)
17	地質鉱物	クルワドウ沢の団塊	鬼無里		市指定記念物(天然記念物)
18	地質鉱物	奥裾花のケスタ地形	鬼無里		市指定記念物(天然記念物)
19	地質鉱物	一之坂亀甲岩	鬼無里		市指定記念物(天然記念物)
20	地質鉱物	山穂刈のクジラ化石(シンシュウセミクジラ)	信州新町	長野市立博物館(信州新町化石博物館)	市指定記念物
21	地質鉱物	裏沢の絶滅セイウチ化石	信州新町	長野市立博物館(信州新町化石博物館)	県指定記念物(天然記念物)
22	地質鉱物	菅沼の絶滅セイウチ化石	信州新町	長野市立博物館(信州新町化石博物館)	県指定記念物(天然記念物)
23	地質鉱物	大口沢のアシカ科化石	信州新町	長野市立博物館(信州新町化石博物館)	県指定記念物(天然記念物)
24	地質鉱物	石英安山岩	中条		市指定記念物(天然記念物)
25	地質鉱物	貝類化石(シガラミサルボウやシナノホタテなど)	戸隠	長野市立博物館(戸隠地質化石博物館)	
26	地質鉱物	ホホジロザメ化石	戸隠	長野市立博物館(戸隠地質化石博物館)	
27	地質鉱物	ダイカイギウ化石	戸隠	長野市立博物館(戸隠地質化石博物館)	



歴史文化の特徴 2 「信濃の国」のはじまり

ストーリー 2 「信濃の国」のはじまり 五世紀代にはじまる内陸交通路（「古東山道」）の整備・拡充と馬匹生産の展開は、松代・若穂地域を中心とした千曲川流域に独自の積石塚古墳文化圏を現出させ、箱清水式土器文化圏を母体に大型前方後円墳の累代的築造に象徴される「シナノ」のクニから、広域行政圏である「科野」・「信濃」国を誕生させる社会再編の引き金となった。

「シナノ」のクニ

- ・弥生時代に伝わった稲作は、石川条里遺跡（篠ノ井）、川田条里遺跡（若穂）など現在まで続く水田の原風景を形づくり、「箱清水式」と呼ばれる赤く塗った土器に象徴される独自の文化圏を形成した。
- ・後背湿地に広がった水田を望む山上には、姫塚古墳・川柳将軍塚古墳（篠ノ井）、土口将軍塚古墳（松代）、和田東山古墳群（若穂）と前方後円墳が累代的・継続的に築造され、古墳時代前期にはいくつかの集団による勢力圏が階層的に重層する政治・文化圏（「シナノ」のクニ）が現れる。

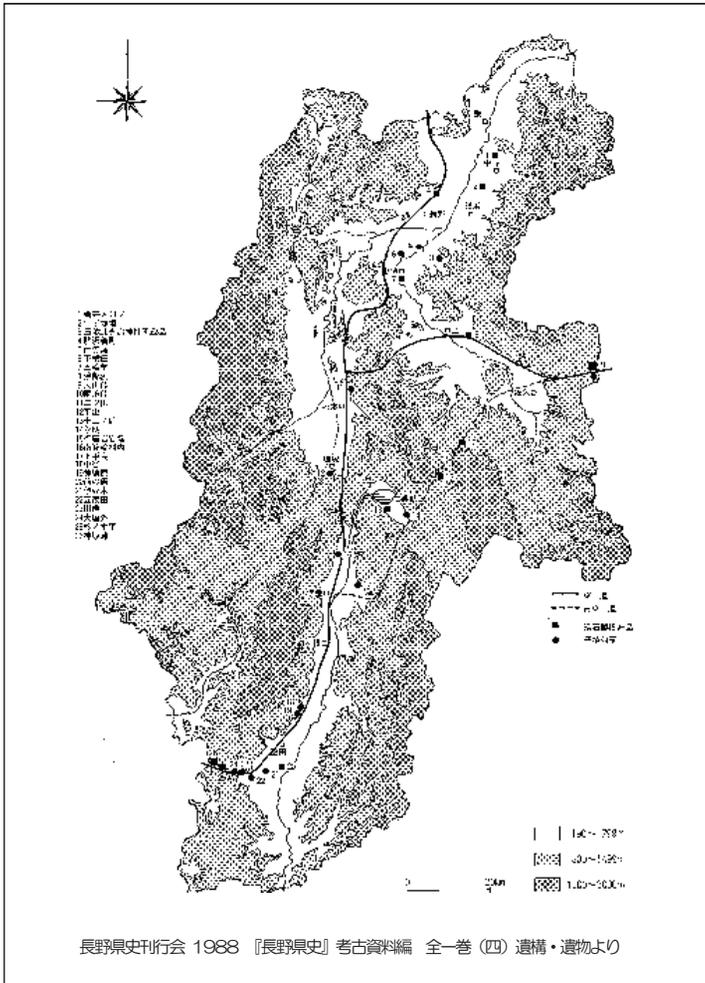


赤い土器（長野市国鉄貨物基地遺跡出土箱清水式土器）

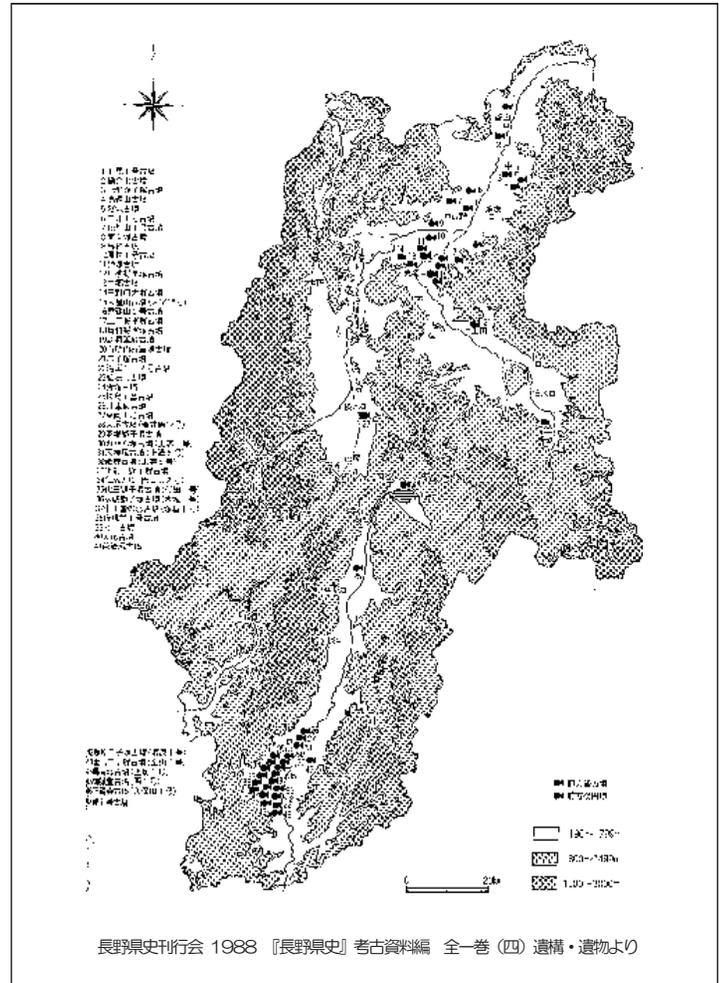
前方後円墳

- ・朝鮮半島との交流による大陸文化の摂取が積極的に図られた五世紀になると、馬事文化の導入とともに、「古東山道」と呼ばれる内陸交通路が整備されて、政治・文化圏が一変する。
- ・大型前方後円墳は西方社会への出入口となる下伊那へと築造域を移し、列島内で他例をみないほどの質と量で前方後円墳が築造される。

- ・「アズマ」の出入口になった南に対して北では、前代を継承しない新たな集落が出現するとともに、土器（須恵器）を生産した松ノ山窯跡（信更）、木製品を生産した榎田遺跡（若穂）、石製祭具を生産した本村東沖遺跡（上松）と手工業生産の拠点が現れ、分業化が進む。
- ・それに呼応して、武富佐古墳（信州新町）、田野口大塚古墳（信更）、清水原古墳群（若穂）、地附山古墳群（上松）と新たな古墳築造層が台頭する。
- ・長野のごく一部を指していた「シナノ」が拡大して、「科野」国の下地が形づくられた。



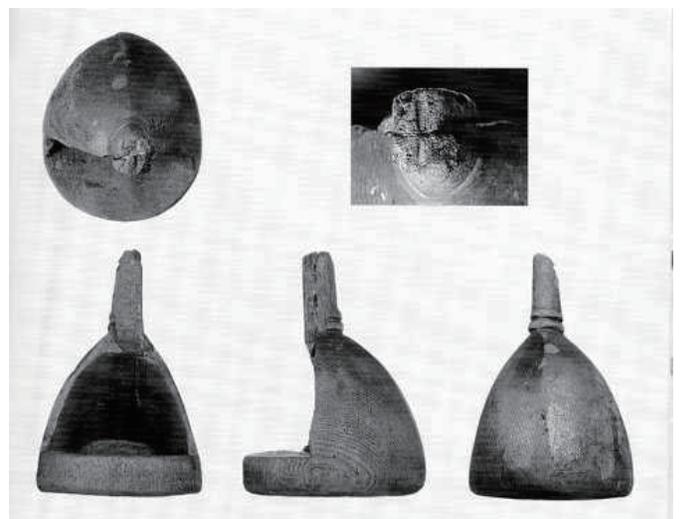
石製模造品の分布と古東山道・東山道のルート



前方後円墳の分布

馬に関わる遺跡と遺物

- ・古墳時代中期に朝鮮半島を経由して列島に導入された馬事文化は、ほとんど時を経ずに到来している。
- ・乗馬用の道具（馬具）だけでなく、木製馬具の生産や馬を埋葬する行為も伴っている。
- ・篠ノ井遺跡群（篠ノ井）の馬・牛骨（古墳時代前期）
- ・塩崎遺跡群（篠ノ井）の古墳周溝内の馬骨（古墳時代中期）
- ・篠ノ井遺跡群（篠ノ井）の馬埋葬土坑（古墳時代後期）
- ・飯綱社古墳（篠ノ井）の初期馬具（古墳時代中期）



榎田遺跡出土木製壺鐙

- ・大室 196 号墳 (松代) の初期馬具 (古墳時代中期)
- ・大室 241 号墳 (松代) の飾り馬具 (古墳時代中～後期)
- ・大室 186 号墳 (松代) の馬頭骨の埋納 (古墳時代後期)
- ・大星山 2 号墳 (若穂) の飾り金具 (古墳時代中期)
- ・榎田遺跡 (若穂) の木製鞍・木製壺鐙 (古墳時代中期)
- ・地附山・上池ノ平 5 号墳 (上松) の馬具 (古墳時代中期)
- ・「大室牧」・「桐原牧」



積石墳丘と合掌形石室 大室 168 号墳

積石塚古墳

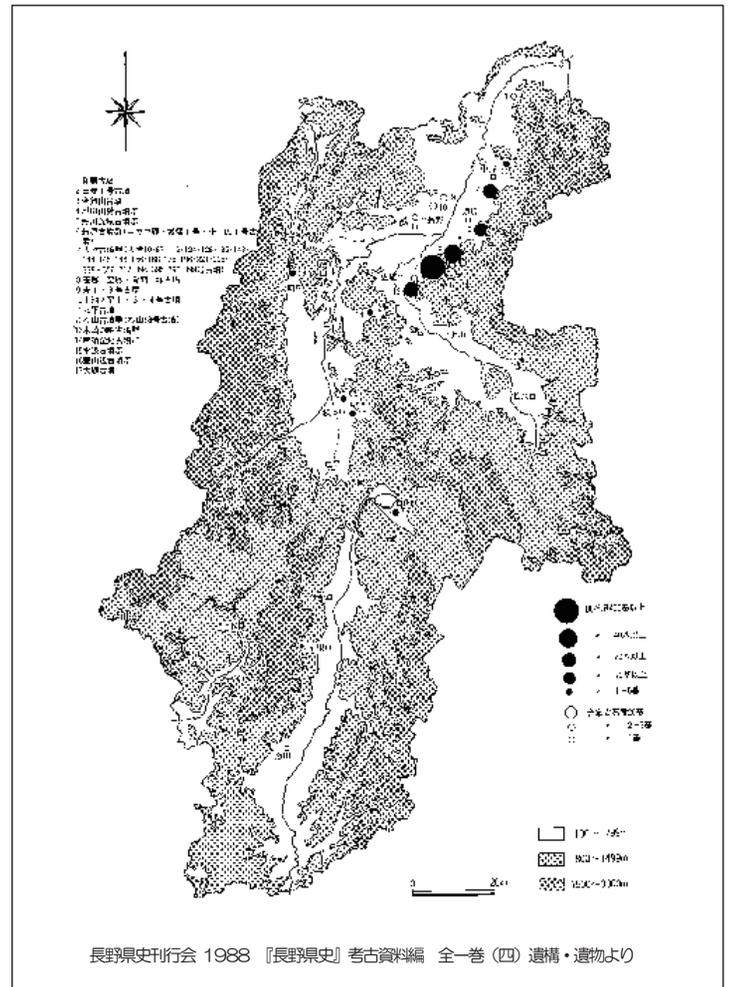
・平安時代には有数の馬匹生産地となる千曲川右岸に、大星山 4 号墳 (若穂) や片山古墳 (若穂) を嚆矢に、大室古墳群に代表される積石塚古墳群が出現し、以後、菅間王塚古墳・竹原笹塚古墳・桑根井空塚古墳・西前山古墳 (松代) をはじめに、終末期古墳群である長原古墳群と古墳時代の終わりまで濃密な積石塚古墳文化圏を形成する。

- ・大室古墳群 (松代) 古墳時代中～終末期
- ・長礼山 2 号墳 (松代) 古墳時代中期
- ・菅間王塚古墳 (松代) 古墳時代中～後期
- ・竹原笹塚古墳 (松代) 古墳時代後期
- ・西前山古墳 (松代) 古墳時代後期
- ・桑根井空塚古墳 (松代) 古墳時代後期
- ・桑根井鐙塚古墳群 (松代) 古墳時代後期
- ・大星山 4 号墳 (若穂) 古墳時代中期
- ・片山古墳 (若穂) 古墳時代前～中期
- ・長原古墳群 (若穂) 古墳時代終末期
- ・清水原古墳群 (若穂) 古墳時代中期



篠ノ井遺跡群 馬埋葬遺構

長野市教育委員会 2001 『篠ノ井遺跡群 (5)』より

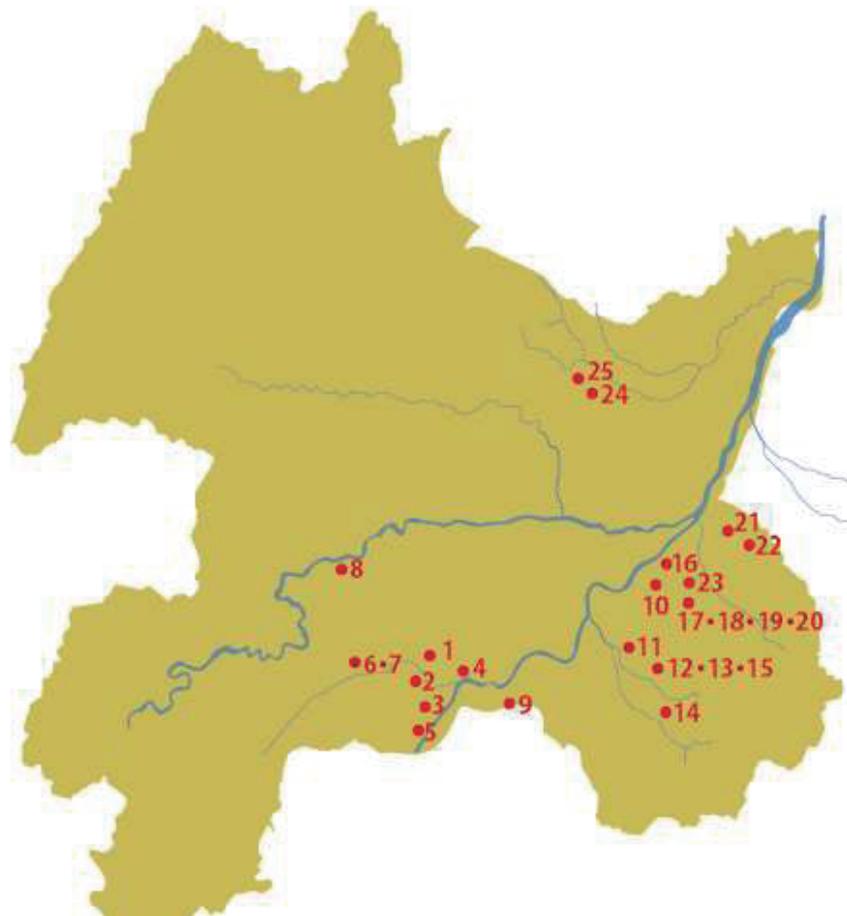


長野県史刊行会 1988 『長野県史』考古資料編 全一巻 (四) 遺構・遺物より

積石塚古墳の分布

関連文化財群の構成文化財

番号	区分	名称	地区	所有者等	指定等
1	史跡	川柳将軍塚古墳・姫塚古墳	篠ノ井	布施神社	国指定
2	埋蔵	飯綱社古墳	篠ノ井	布施神社	周知の包蔵地
3	埋蔵	石川糸里遺跡	篠ノ井	個人等	周知の包蔵地
4	埋蔵	篠ノ井遺跡群	篠ノ井	個人等	周知の包蔵地
5	埋蔵	塩崎遺跡群	篠ノ井	個人等	周知の包蔵地
6	埋蔵	松ノ山窯跡	信更	個人	周知の包蔵地
7	史跡	田野口大塚古墳	信更	個人	市指定
8	史跡	武富佐古墳	信州新町	神社	市指定
9	史跡	土口将軍塚古墳	松代	個人等	国指定
10	史跡	大室古墳群	松代	長野市・個人等	国指定
11	埋蔵	長礼山古墳群	松代	個人	周知の包蔵地
12	史跡	菅間王塚古墳	松代	個人	県指定
13	史跡	竹原笹塚古墳	松代	個人	市指定
14	史跡	桑根井空塚古墳	松代	個人	県指定
15	埋蔵	西前山古墳	松代	個人	周知の包蔵地
16	埋蔵	川田糸里遺跡	若穂	個人等	周知の包蔵地
17	埋蔵	和田東山古墳群	若穂	個人等	周知の包蔵地
18	埋蔵	大星山古墳群	若穂	消滅	
19	埋蔵	片山古墳	若穂	個人	周知の包蔵地
20	考古	片山古墳出土 素環頭太刀及び内反太刀	若穂	市立博物館	市指定
21	埋蔵	榎田遺跡	若穂	個人ほか	周知の包蔵地
22	埋蔵	清水原古墳群	若穂	個人	周知の包蔵地
23	埋蔵	長原古墳群	若穂	長野市、個人	周知の包蔵地
24	埋蔵	本村東沖遺跡	上松	個人ほか	周知の包蔵地
25	埋蔵	地附山古墳群	上松	個人	周知の包蔵地



ストーリー 3 長野の山岳信仰

長野盆地を取り囲むように広がる山々は、人々に多くの恵みをもたらすとともに、古くから信仰の対象とされてきました。そのなかには山岳修行を行う修験者たちの聖地となっていくような場所もありました。江戸時代になってますます盛んになっていった山岳信仰によって、人や物の往来が増え、山と山とをつなぐ信仰の道が整備されていきました。そうした自然を愛する人々の心は、明治時代の廃仏毀釈の嵐を経ながらも、脈々と現在まで受け継がれています。

水神信仰

- ・戸隠神社に祀られている九頭龍大神は古来より水の神、雨乞いの神として信仰をあつめている。
- ・大岡地区の樋知大神社境内にあるお種池は古くから有名で、絶えることなく沸く水は、灌漑の種水として周辺住民の信仰の対象だった。
- ・市内各地の湧水池には水神を祀る小さな祠が今でも残されている。



九頭竜神社（戸隠）

樋知大神社のお種池（大岡）

山岳信仰

- ・市内で山岳信仰の対象となった山としては、戸隠連峰をはじめ、飯縄山、霊仙寺山、皆神山などがある。
- ・戸隠山に関する信仰については、鎌倉時代中期に成立した「阿婆縛抄」に略記が記されている。それによれば、嘉祥2年（849）ごろ、「学問」という修行僧が飯縄山にこもって西の山に向かって祈念していたところ、独鈷が飛んで行ってしまった。落ちた場所に行くと大きな岩屋があり、そこで法華経を誦していたところ、九頭龍が現れた。曰く、自分のもとと別当であったが、食欲で信者から施しを受けながら放埒に過ごしていたためこのような姿になったという。これに対して学問行者は住处の岩屋に帰るように言い、龍はそれに従った。この後、戸隠寺と呼ぶようになったとある。
- ・戸隠山は本院が中心であったが、康平元年（1058）に参詣路の途中に宝光院が、寛治元年（1087）に本院と宝光院の間に中院が成立。これらは現在の奥社、中社、宝光社へつながっていく。

- 本院では九頭龍権現が祀られ、本地仏は聖観音菩薩、中院は釈迦如来、宝光院は地藏菩薩が本尊として祀られていた。
- 三院の衆徒はみな御師として檀那場を持ち、講を組織して檀那回りをを行い、参詣者を宿泊させた。天保12年（1841）には全8万軒余りの檀那数を数え、信濃や越後を中心に全国へ広がっていた。現在でも戸隠講は続いている。
- 飯縄信仰のはじまりについては、戸隠信仰と同じく「阿婆縛抄」の戸隠寺の記事が初出。
- 中世に成立した「顕光寺流記」では、飯縄権現は「日本第三の天狗であり、このために戸隠山の傍らに侍して鎮守となる」と語ったとある。
- 戦国時代には飯縄権現が軍神であるという信仰が広がり、武田信玄は持仏堂に飯縄権現を祀っており、上杉謙信も兜の前立てに飯縄権現をかたどっていた。
- 皆神神社には永正4年（1507）の年号を持つ仏像があり、このころには信仰の拠点となっていたとされる。
- 中世以降、修験道が盛んとなり、熊野権現を勧請。大日如来・阿弥陀如来・弥勒菩薩の三仏を皆神山の各峰に安置し熊野三社大権現と称した。
- 境内社の侍従神社に祀られる侍従大神は、佐久の内山城主内山美濃守満久の三男下野守三郎満顕で、13歳にして鞍馬山に入り密教を厳修、その後各霊山を巡り、内山氏滅亡のとき皆神山に入山、大日寺和合院宥賢と称したとされる。後に侍従天狗坊と名乗り、皆神山の修験を完成させた人物とされる。
- 戸隠山とともに皆神山は修験道で長いあいだ栄え、和合院は聖護院より川中島四郡（埴科・更級・水内・高井）の年行事職を命ぜられ、更にはほぼ信濃全域の本山派山伏の支配権を得ていた。



熊野出速雄神社（皆神山）

廃仏毀釈

- 明治元年のいわゆる「神仏分離令」を受けて長野市内でも多くの寺院で廃仏毀釈が行われた。
- 戸隠山顕光寺は戸隠神社となり、皆神山和合院も廃された。
- 市指定有形文化財の木造金剛力士像は、戸隠山奥院の仁王堂（現隨身門）に安置されていたもので、廃仏毀釈を逃れ、善光寺の東南にある寛慶寺に移されている。

関連文化財群の構成文化財

番号	区分	名称	地区	所有者等	指定等
1	建造物	長野市戸隠伝統的建造物群保存地区	戸隠		国選定
2	工芸品	牙笏	戸隠		重要文化財
3	遺跡	戸隠神社信仰遺跡	戸隠		県
4	植物	戸隠神社奥社社叢	戸隠		県
5	民俗芸能	戸隠神社太々神楽	戸隠		県
6	書跡	戸隠山顕光寺流記并序	戸隠		県
7	建造物	越志家住宅・土蔵	戸隠		国登録
8	建造物	旧徳善院本堂・庫裏	戸隠		国登録
9	遺跡	戸隠福平の宣澄祠	戸隠		市
10	遺跡	二条の城之内城跡	戸隠		市
11	遺跡	戸隠原の大頭庵跡	戸隠		市
12	民俗芸能	宣澄踊り	戸隠		市
13	古文書	武田晴信願状	戸隠		市
14		飯縄神領領主仁科家代々の墓	芋井		
15	工芸品	銅製不動明王御正躰	戸隠		県
16	建造物	中社の納経供養塔	戸隠		市
17	史跡	戸隠奈良尾弘法遺跡	戸隠		市
18	建造物	熊野出速雄神社摂社侍従大神社拝殿・随神門	松代		国登録
19	遺跡	飯綱山修験道遺跡	芋井		
20	建造物	熊野出速雄神社本殿	松代		県
21	彫刻	木造大日如来坐像 木造阿弥陀如来坐像 木造弥勒菩薩坐像	松代		市
22	名勝・天然記念物	樋知大神社境内のお種池及び社叢と湿生植物群落	大岡		市
23	彫刻	木造金剛力士像(寛慶寺)	長野		市

